

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月18日
中国運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三次市地域公共交通会議	備北交通株式会社	三次町循環 4.6km 南畑敷町循環 10.2km 計 14.8km	観光利用者を増加させるため、交通観光センターや観光協会にてチラシを配布するなど、利用促進を図った。また、運行事業者と協力し、学生向けの利用促進策を展開した。	A	B	運行の周知及び乗り方の普及を図るべく、くるんを活用したバスの乗り方教室を積極的に実施する(PRする)。	・運行事業者協力による企画乗車券や啓発活動活動などの利便性向上及び利用促進策の取組を行ったことは評価できるが、目標を達成出来なかった系統については、コロナの影響以外の分析など行っていただき次に繋げていただきたい。 ・利用者のニーズに対応した運行内容の検討や、地域と連携して観光利用も含めた利用促進の取組を進めていくことで利用者の増加につなげていくことを期待する。	
		赤名線 1日4往復	運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	A	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		
		下高野線 1日4往復	令和2年度に実施した再編後の利用状況を観察するとともに、運行事業者と協議のもと、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、通院や通学を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。		
		作木線① 1日3往復	通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、市内高校生を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。		
		作木線② 1日2往復	通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、市内高校生を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。		
	有限会社君田交通	川の駅三次線 1日5往復	通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、市内高校生を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	B	本路線は通学利用が中心の路線であることから、運行事業者と協力し、利用実態の把握に努め、通学時に利用しやすいダイヤ編成の検討などにより、利便性向上を目指す。		
	特定非営利活動法人元氣むらさき	作木町上地区 週2回 作木町中地区 週2回 作木町下地区 週2回	運行主体と連携し、作木町内の広報紙等を用いて積極的に運行のPRを行った。また、IT技術を用いた運行管理システム及び予約アプリの活用に係る実証実験事業を継続して行った。	A	B	他の交通手段への乗換等、作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
廿日市市公共交通協議会	佐伯交通有限会社	玖島・友和線	・最近の利用状況を検証し、目標値の見直しを行った。玖島・友和線については沿線人口数を考慮して目標値を5%増に設定した。	A	B	・玖島・友和線、所山線ともに、新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数が減少し、目標未達成。効果的な利用促進の方法や運用の見直しについて検討が必要。 ・新型コロナウイルスの状況を鑑みながらPRの機会を増やし、工夫しながら周知を図るとともに、市の乗合バスと連携をとり、利用しやすさの向上を目指す。	・コロナ禍でイベントの中止などの影響もあるが、目標を達成できていない系統については、コロナの影響以外の分析を行っていただき、引き続き利用者獲得に向けた議論をしていただきたい。 ・感染予防を行っていただき、安全安心に利用できる環境づくりと、通学通院以外の外出促進となるよう関係者と協議していただきたい。	
		所山線		A	C	・新型コロナウイルス感染予防として、車内の換気や消毒など、対策の徹底をアピールし、利用者の安心につなげる。		
		玖島～玖島分れ～友和学校ロータリー(申請番号3)	・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討。 ・コロナ禍で、はつかいち桜まつりが中止となり、対面でのPRができなかった。収益率向上のために、利用促進策について検討が必要。	A	B	・利用者や地域の意見、要望をもとに、広電バス津田線との乗り継ぎ利便性向上のため、ダイヤ改正を実施。 ・目標を達成していないため、PRの機会を増やし、利用促進の方法について検討が必要。 ・新型コロナウイルス感染予防として、車内の換気や消毒など、対策の徹底をアピールし、利用者の安心につなげる。		
		玖島～友和学校～佐伯中学校前～さいき文化センター～津田(申請番号4)	・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討。 ・コロナ禍で、はつかいち桜まつりが中止となり、対面でのPRができなかった。	A	A	・利用者や地域の意見、要望をもとに、広電バス津田線との乗り継ぎ利便性向上のため、ダイヤ改正を実施。 ・目標を達成。さらにPRの機会を増やし、収益率増加を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防として、車内の換気や消毒など、対策の徹底をアピールし、利用者の安心につなげる。		
	有限会社津田交通	浅原線	・最近の利用状況を検証し、目標値の見直しを行った。浅原線については沿線人口数を考慮して目標値を5%増に設定した。	A	B	・一定の稼働率を維持しているものの、利用者数は全体的に減少傾向にあるため、効果的な利用促進の方法や運用の見直しについて検討が必要。 ・PRの機会を増やし、工夫しながら周知を図るとともに、市の乗合バスと連携をとり、利用しやすさの向上を目指す。		
		飯山・中道線		A	C			
		津田～吉和間自主運行バス	・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討。 ・コロナ禍で、はつかいち桜まつりが中止となり、対面でのPRができなかった。収益率向上のために、利用促進策について検討が必要。	A	C	・広電バス津田線で利用促進事業を実施することで、吉和地域から廿日市地域への移動を促進する。また、利用者や地域の意見、要望をもとに、広電バス津田線との乗り継ぎ利便性向上のため、ダイヤ改正を実施。 ・目標は達成していないが、一定の利用者数があり、効果をあげている。引き続き、PRの機会を増やし、収益率増加を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防として、車内の換気や消毒など、対策の徹底をアピールし、利用者の安心につなげる。		
	有限会社津田交通(令和2年10月～令和3年3月) NPO法人ほっと吉和(令和3年4月～令和3年9月)	吉和線	・高齢者の介護予防事業や学校行事にデマンドを活用してもらっている。 ・運行事業者と、利用促進策と運行内容について検討した。	A	C	・目標は達成していないが、一定の利用者数があり、効果をあげている。引き続き、PRの機会を増やし、利用者数の増加を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防として、車内の換気や消毒など、対策の徹底をアピールし、利用者の安心につなげる。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況		
府中市地域公共交通活性化協議会	株式会社中国バス	(右まわり便) 府中市役所～ 道の駅ひんご府中～ 府中市市民病院～ 府中市役所	・道の駅を交通結節点とした他路線への接続もスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。	A	B	【右まわり便】 ・コロナウイルスの感染拡大の影響により、目標数値を下回ったと推察される。 ・次年度目標 利用者16,000人/年	・商業施設との連携、幼稚園児等と家族に向けたイベントなど積極的に利用促進の取組を行っていることは評価できるが、目標は未達成となった。コロナによる外出自粛も要因となっていることも考えられるが、それ以外の要因分析も行っていただきたい。 ・今後も、住民のニーズにあわせて交通手段の導入や運行内容を検討していくとともに、利用者増加への取組により、持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。
		(左まわり便) 府中市役所～ 見晴団地～ 府中高校～ 道の駅ひんご府中～ 府中市役所	・日頃公共交通を利用する機会が少ない幼稚園児等とその家族に利用促進策として循環バスの飾り付けを行い、無料乗車券の配布を実施した。 ・商業施設1箇所と連携し循環バスの利用で買い物料金の割引が可能となる特典を、引き続き実施した。	A	B	【左まわり便】 ・コロナウイルスの感染拡大の影響により、目標数値を下回ったと推察される ・次年度目標 利用者10,000人/年 【共通事項】 ・郊外路線との接続ダイヤを調整し、利便性向上に努める。 ・今後も、高齢者以外にも利用を促進するためにモビリティマネジメントの実施を続ける。	
安芸高田市公共交通協議会	有限会社高宮中央交通	高宮甲田区域	・市役所総合窓口課や高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課と連携し、利用方法の説明及び登録受付を行い、利用者増を図った。また、運転免許を自主返納する高齢者への支援制度として、乗車回数券の配布を行い、利用促進を図った。 ・市内地域福祉会議に参加し、利用方法の説明を行い、地域での利用を呼び掛けた。 ・商業施設と連携し、乗車補助券を配布する取組を行った。	A	B	・今後もアンケート調査を行い、利用者の潜在的なニーズを把握し、地域の実情に適した運行を検討する。 ・高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課や総合窓口課と連携し、免許返納後の利用促進を図るとともに、商業施設と連携し、乗車補助券を配布する取組を継続実施する。 ・引き続き持続可能な交通ネットワークの構築を目指し、タクシー等の活用も含め、他市町の動向を見ながら検討する。	・市役所総合窓口課での利用説明や高齢者運転免許自主返納者への回数券配布、商業施設と連携し乗車補助券配布など利用促進の取組みを進めている点は評価できるが、目標は未達成となった。コロナによる外出自粛も要因となっていることも考えられるが、それ以外の要因分析も行っていただきたい。 ・要因分析を元に、今後も連携して利用促進の取組みを進めることで、利用者の増加、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築のための取組がより行われることを期待する。
	織田産業株式会社	美土里区域・吉田八千代区域					
	有限会社吉田タクシー	吉田八千代区域					
	沖田 正	美土里区域・吉田八千代区域					
	有限会社甲立タクシー	甲田向原区域					
	岩本 薫						
	升岡 秀治						

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三原市地域公共交通活性化協議会	双葉運輸株式会社 株式会社エフジー おかの交通株式会社	①船木路線 ②北方路線 ③南方路線	・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。 ・市内の各交通モードや公共交通に関する情報などを掲載した三原市公共交通マップを作成し、運行車両や公共施設などに設置した。	A	B	・利用者が安心して利用できる環境を整備し、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に講じて運行を継続する。 ・新型コロナウイルス感染症が収束した際は、減少した利用者数の回復に向けて、町内会長連合会、交通事業者と連携して利用促進に取組む。 ・必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。	・時刻表配布等の広報活動に路線バスとの接続情報を掲載している点など利用促進活動は評価できるが、目標は未達成となった。コロナによる外出自粛も要因となっていることも考えられるが、それ以外の要因分析も行っていただきたい。 ・安心して利用できる環境づくりと関係者と連携して外出促進に繋がるような利用促進策を検討し、地域実態に即した運行になるよう期待する。	
	三原市	①徳納(保)宅横～小林鍼灸院 ②下谷橋～中山歯科 ③山崎倉庫跡～中山歯科 ④和木ストア～中山歯科 ⑤村上店～中山歯科	・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。 ・市内の各交通モードや公共交通に関する情報などを掲載した三原市公共交通マップを作成し、運行車両や公共施設などに設置した。 ・区域運行の乗合タクシーへの転換に向けて、町内会や交通事業者、福祉団体、市で構成する検討部会を組織し、協議・検討を行い、令和3年10月から運行を開始した。	A	B	・利用者が安心して利用できる環境を整備し、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に講じて運行を継続する。 ・自治区連合会、交通事業者と連携して利用促進に取組む。 ・乗合タクシーの利用状況を検証し、必要に応じてサービス内容の改善や、より効果的な運行を図る。		
	有限会社久井交通	八幡路線	市内の各交通モードや公共交通に関する情報などを掲載した三原市公共交通マップを作成し、運行車両や公共施設などに設置した。	A	B	・利用者が安心して利用できる環境を整備し、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に講じて運行を継続する。 ・新型コロナウイルス感染症が収束した際は、減少した利用者数の回復に向けて、町内会、交通事業者と連携して利用促進に取組む。		
江田島市公共交通協議会	株式会社江田島タクシー	江田島北部線(江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から稼働率向上のために、1日4便から5便に増便させるダイヤ改正を行った。	A	B	・江田島北部朝夕便は、通学利用が増加したため、全便で目標値を達成できた。	・時刻表の配布や広報誌へ利用促進に関する記事の掲載、ダイヤ改正などにより利用促進に取り組んでいることは評価できるが、目標は未達成となった。コロナウイルス感染症の影響あり利用者が減少したことはやむを得ない部分もあるかと考えるが、コロナの影響以外の要因も分析を行っていただき、今後利用促進活動を通して改善されることを期待したい。 ・ニーズに対応した接続の見直しや利用促進に取り組むことで利用者の増加につなげ、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。	
		江田島北部線(朝夕便) (江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から運行見直し基準(稼働率25%以内)となっていた第2便と第6便を減便した。また、第1便の終点を延伸させるなどのダイヤ改正を行った。	A		・江田島北部線及び沖美北部線は、利用者が低迷したため、市民ニーズに対応した需要の掘り起こしを行う。 ・沖美南部線:利用者数は、ほぼ前年並みとなった。現在の運行を継続するとともに、必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。		
	城山 賢二	沖美北部線(沖美町・能美町) 美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスの接続に配慮したダイヤ改正を行った。	A		・フィーダー系統を利用したことがない人、特に利用の仕方が分からない人に、広報誌や出前講座などを活用して、その仕組みや利用方法を分かりやすく説明し、利用者の増加につなげる。 ・人口減少やコロナ禍の中、フィーダー系統全体利用者は、8,619人となり、前年比で308人の増加となった。令和3年11月にはおれんじ号や路線バスに無料乗車できる「おでかけ無料乗車day」を実施した。今後も運行事業者と連携しながら、利用促進策やターゲットを絞ったモビリティ・マネジメントを行っていく。		
	有限会社能美タクシー	沖美南部線(沖美町・能美町) 三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスに配慮したダイヤ改正を行った。	A				

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島市陸上交通地域協議会	有限会社やぐちタクシー	フレスタロ田南店前～コープ高陽・矢口駅～フレスタロ田南店前(8.8km)	新規利用者の獲得、利用者の利便性向上のため、障害者割引の導入や、乗りやすさに配慮した新型車両の導入を行った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	<p>・回数券の割引販売などの利用促進、空気清浄機を導入し安心して乗車できるような取組を行っている点は評価できるが、目標は未達成となった。コロナウィルス感染症の影響あり利用者が減少したことはやむを得ない部分もあるかと考えるが、コロナの影響以外の要因も分析を行っていただき、今後利用促進活動を通して改善されることを期待したい。</p> <p>・安心して利用できる環境づくりと、今後もニーズに対応した運行内容への見直しや地域と連携して利用促進に取り組むことで利用者の増加につなげ、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。</p>	
		フレスタロ田南店前～コープ高陽・矢口駅～上矢口上(10.0km)						
	有限会社カープタクシー	黄金山町24番前～池田整形外科前～黄金山町24番前(9.5km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
	有限会社中野タクシー	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
		ひまわり・ダイキ前～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路11.3km,復路11.3km)						
	株式会社フォーブル	下城ハイツ上～大原駅・Aシティ中央～下城ハイツ上(13.5km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
有限会社カオル交通	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。			
	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(12.0km)							
東広島市地域公共交通会議	中国ジェイアールバス株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行(6系統) ①洪・長貴～シヨージ～黒瀬支所線 ②洪・長貴～黒瀬支所線 ③八畝ヶ畑～黒瀬支所線 ④洋国団地～黒瀬支所線 ⑤檜原～黒瀬支所線 ⑥上条～黒瀬支所線	地元運行協議会による利用状況調査を実施して利用者ニーズを把握した。	A	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1日あたりの平均利用者数は13%程度減少。利用者確保するため、地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。	<p>・路線沿線の施設と連携した周知活動や利用状況調査によるニーズ把握など利用促進に取り組まれていることは評価できるが、目標は未達成となった。コロナウィルス感染症の影響あり利用者が減少したことはやむを得ない部分もあるかと考えるが、コロナの影響以外の要因も分析を行っていただき、今後利用促進活動を通して改善されることを期待したい。</p> <p>・引き続き利用状況の分析等を行いながら地域のニーズに即した取組を実施していただくことを期待する。</p>	
		市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1便あたりの平均利用者数は15%程度減少。また、利用者の戻りも芳しくない。今後は、アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を行うとともに、路線沿線の協力店舗と引き続き連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。		
		西条地域におけるフィーダーバス(西条市街地循環バス)の運行に要する車両購入		A	A			

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
東広島市地域公共交通会議	芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1便あたりの平均利用者数は15%程度減少。また、利用者の戻りも芳しくない。今後は、アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を行うとともに、路線沿線の協力店舗と引き続き連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。	(再掲) ・路線沿線の施設と連携した周知活動や利用状況調査によるニーズ把握など利用促進に取り組まれていることは評価できるが、目標は未達成となった。コロナウイルス感染症の影響あり利用者が減少したことはやむを得ない部分もあるかと考えるが、コロナの影響以外の要因も分析を行っていたが、今後利用促進活動を通して改善されることを期待したい。 ・引き続き利用状況の分析等を行いながら地域のニーズに即した取組を実施していただくことを期待する。	
		西条地域におけるフィーダーバス(西条市街地循環バス)の運行に要する車両購入	引き続き事業を実施	A	A			
庄原市地域公共交通会議	備北交通株式会社	下高野線 1日 4往復	令和2年度に実施した再編後の利用状況を観察するとともに、運行事業者と協議のもと、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、通院や通学を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。	・市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮したダイヤ改正の検討など、生活交通路線ではあるものの一層の利用者確保が図られたことは評価できるが、目標は未達成となった。 ・コロナの影響により利用者数は減少しているが、今後も利用促進や運行改善を図ることで、持続可能な公共交通となることを期待する。	
坂町地域公共交通会議	坂町	坂町循環バス 坂・北新地線 (車両減価償却費等国庫補助金1両)	令和2年2月に、坂町第2次地域公共交通網形成計画を策定しており、その中で設定した目標や施策などを反映し地域内フィーダー系統確保維持計画を定め、事業を推進している。早期に実現可能な事業として対応を進めていた、情報提供の改善については、昨年作成した各路線毎のポケット時刻表が利用者の好評を得て継続的に配布を行っており、当初バス車両のみで配布していたが、利用者からの要望もあり、現在は町内各施設の窓口でも配布を行っている。バスデータ標準化のため作成したGTFSデータについては、現在、坂町HP上で公開しているが、より利用しやすい環境とするため、無料の地図アプリであるGoogleマップと連携させる予定であり、公開に向けてアプリの運営者と調整を行っている。また、令和2年3月以降に拡大した新型コロナウイルス感染症については、運転手全員がワクチンを接種したうえで、車両の消毒や換気を徹底して行っており、感染拡大防止に取り組んでいる。	A	B	坂町循環バスは、平成30年4月から新たな運行形態で運行実施しており、これに対する満足度や新たな課題を把握するため、令和元年9月にアンケートを実施した結果、大きな課題はなかったが、地域住民及び利用者の循環バスに対するニーズが多様化している状況が確認された。その結果をふまえて令和2年2月に策定した、坂町第2次地域公共交通網形成計画では、坂町循環バスの運行日・運行時間の改善、商業施設等と連携した利用促進の実施、情報提供に関する改善、バスデータの標準化、安心・安全・快適な利用環境の構築などを具体的な事業として挙げている。その中で、早期に実現可能であるとして取組んでいる。情報提供の改善のうち、地図アプリとの連携については、可能な限り速やかに対応する必要がある。今後は、現在の運行を継続しながら、これまでに引き続き、計画に掲げた各事業の実施に向けた調査・取組みを行い、坂町循環バスの利用促進を図り、将来に渡って存続可能な公共交通となるよう努める。また、緊急的な対応が求められる新型コロナウイルス感染症についても、安心して利用できるよう、適切に対応していく。	・各路線毎のポケット時刻表の配布により情報提供の改善が図られていること、徹底した感染症対策により運行の確保が図られていることは評価できる。 ・地図アプリとの連携により一層の情報提供の改善がなされるとともに、より持続可能な公共交通に向けた運行の改善、利用促進についての検討がなされることを期待する。	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
尾道市地域公共交通協議会	岡山交通株式会社	区域運行型 ①菅野・上川辺地区 ②河内・今津野地区 ③綾目・大和地区	地域と連携し、みつき乗合タクシーを利用した買い物ツアーを企画し利用促進に取り組んだ。しかし、広島県に緊急事態宣言が発令されたため延期した。(次期に実施予定。)	A	B	利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少傾向にあるが、引き続き地域団体や社会福祉協議会、交通事業者と連携し、利用促進に努めていく。	・地域と連携した買い物ツアーの企画など、利用促進を行っていることは評価できるが、緊急事態宣言により実施が延期され目標の達成には至らなかった。 ・新型コロナウイルスの影響もあり利用者が減少傾向ではあるが、引き続き関係者とウィズコロナ・アフターコロナに向けた利用促進に努めて頂きたい。
鳥取市生活交通会議	日本交通株式会社	①米里線(越路～市立病院) ②米里線(越路～桜谷口)	(R2二次評価結果) 病院やスーパー利用などの生活交通として、地域に適した交通モード検討も含め、いかに利便性効率性を高められるかを関係者と連携して議論していただきたい。 タクシー助成や共助交通など、地域の実情に応じた交通手段を導入することで、住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。 (反映状況) 利用状況を共有し、利用促進に努めるため地域と意見交換会を重ねた。	A	B	沿線地域へチラシを全戸配布するなど改めて地域と利用促進に努めたが、利用者が前年の184人から減少し目標も下回った。 地域に適した交通手段について地域住民との協議を進める。	・生活交通として、地域に適した交通モード検討し関係者と連携し利用促進に努めていることは評価できるが、目標は未達成となった。目標の見直し含めコロナの影響以外の要因などの分析も行っていただきたい。
	日ノ丸ハイヤー株式会社	雨滝・上地線	(R2二次評価結果) 幹線アクセスを中心としたダイヤ設定がされており、通学を中心に利用され、目標値も一定程度達成できていることは評価できる。 これからも広く関係者と連携し、利用者ニーズに沿った運行をしていただきたい。 (反映状況) 地域住民の中心的な交通手段としてより便利なものとなるよう、引き続き可能な限りニーズを反映するよう今後も努めていく。		B	利用者は前年度に続き減少したが、通学を中心に地域住民の交通手段として確立されている。 今後も引き続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。	・利便性効率性を高められるかを関係者と連携して議論していただきたい。住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
南部町地域公共交通会議	南部町	路線定期 上長田線 大木屋～入蔵・あご牛・赤谷～丸合西伯店	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車数の目標数値は、地域の高齢化に伴う人口減少や新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を受け、令和2年度の実績に基づき目標設定を行い、目標達成のため取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、密になると想定される上長田線の朝一の便において令和3年5月12日から続行便を運行し、対応を行っており、現在も継続中である。 ・ダイヤ改正については、地元の住民団体と協議を行い、また鳥取運輸支局とも協議を行い、その改善案について、継続協議をしていくこととなった。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 輸送人員が微増となつてはいるが引き続き住民説明会等で利用者の意見をいただく機会を設けるなど、地元の住民団体と連携を図りながら持続可能な公共交通を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦の中、安心して乗車してもらえるよう続行便の対応や関係者と協議をし利用促進に取り組んだ結果、目標を達成出来た点は評価できる。 ・引き続き安全安心に利用してもらえるよう感染防止に取り組んでいただき、利用者が納得する形で運行していただきたい。 	
		路線不定期 上長田線デマンド 丸合西伯店～入蔵・あご牛・赤谷～大木屋						
		路線定期 東長田線 金山～久蔵・八金・二樹～丸合西伯店						
		路線不定期 東長田線デマンド 丸合西伯店～久蔵・八金・二樹～鎌倉入口						
		路線不定期 上長田東長田デマンド 丸合西伯店～鎌倉入口～大木屋						
	上記5系統、小型車両2台	<ul style="list-style-type: none"> 運行車両については、運行実施に際して支障がないよう定期的な検査を行い、適切な管理を行った。 	A	A	目標を十分達成した。	<ul style="list-style-type: none"> 小型車両の機動力を活かし谷部集落まで利用者のニーズを取り入れながら利用促進に努めることを期待します。 		
米子市地域公共交通会議	日本交通株式会社	大山線 (伯耆大山駅～美濃・尾高～本宮)	<ul style="list-style-type: none"> OD調査や利用者へのアンケート調査を実施することで、利用目的や乗継状況を確認して、ニーズの把握にあたっている。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズにあったダイヤ等になるよう検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OD調査などのニーズの把握、停留所の待合環境整備など利便性向上に努めている点は評価できるが、目標が達成出来なかった系統については、コロナの影響以外の分析を行っていただき次に繋げていただきたい。 ・引き続き利用ニーズの把握に努めてもらうとともに、まちづくりと連携し外出促進となるよう関係者と議論して取り組んでいただきたい。 	
		福万線 (伯耆大山駅～上新印～日下)	<ul style="list-style-type: none"> OD調査や利用者へのアンケート調査を実施することで、利用目的や乗継状況を確認して、ニーズの把握にあたっている。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会を創出するための高齢者の移動に対する支援策を実施する。 ・利用も促すチラシを作成して配布する。 		
三朝町地域公共交通協議会	三朝町	小型車両1両の導入	新規	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年10月に運行を開始したばかりであり、今後利用者等からのニーズを適切に把握し、対応を随時検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助系統は、令和4年度事業から運行開始であるので、利用者ニーズの把握に努め適切な運行をしていただくことを期待する。 	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
江津市地域公共交通会議	江津市	松川波積線 川平駅～久坪～上津井～波積診療所 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	B	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。	<p>・バスマップの全世帯への配布、地域コミュニティ組織との意見交換を実施し利用促進に努めている点は評価できるが、目標を達成出来なかった系統もある。目標の見直しを含め、運行のあり方などを検討していただきたい。</p> <p>・関係者と議論し新規利用者の拡大を目指していただき、住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。</p>	
		有福千田線 有福本明～堂庭～千田～跡市バス停 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	C	C	この路線による需要は極めて少なくなったことを踏まえ、地元との協議を進め、タクシー活用などを検討しながら見直していく。		
		川平線 後谷～奥谷～川平駅口 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	A	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。		
		鹿賀線 鹿賀団地～川越～桜江総合センター (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	B	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。		
		江津川平線 川平～千金～ゆめタウン江津前 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で乗り込み調査を実施したほか、運転手に利用者の状況を確認し、地元協議も行った上で、令和3年5月からバス停を追加した。	A	A	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。		
雲南市地域公共交通協議会	雲南市	吉田ルート (吉田～菅谷)	<p>・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。</p>	A	B	<p>・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。</p>	<p>・住民満足度は目標値を達成出来なかったが、利用者数は目標値を上回る結果となり評価できる。住民満足度については、利用者ニーズの把握に努めていただき、安心に利用できる環境作りをしていただきたい。</p> <p>・今後も地域との連携や運行内容の改善等により、利用者の満足度向上に向けて努力していただき、持続可能な公共交通が実現されることを期待する。</p>	
		田井ルート (吉田～杉戸)						
飯南町地域公共交通会議	飯南町	赤名吉田線 (1日4往復)	利用者数の目標を達成するため、ニーズの掘り起こし、ダイヤ改正等を行い利便性の向上を図る。	A	B	引き続き、利用者数の増加、利便性を図るため、ニーズの掘り起こし及びダイヤ改正等を検討する。	<p>・コロナの影響によりイベント等は中止されたが、ニーズに合わせたダイヤ改正等を行い利便向上を図っている点は評価できる。</p> <p>・安心に利用してもらえるよう、引き続き感染対策を行っていただき、外出促進に向けて関係者と連携し、利用者増加に努め持続可能な公共交通が構築されることを期待する。</p>	
	備北交通株式会社	赤名線 (1日4往復)	運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	A	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
邑南町地域公共交通会議	備北交通株式会社	作木線① 1日 3往復	コロナの影響もあり、目標値を達成できなかったことはやむを得ないが、感染防止の取組を行い、利用者に安心していることは評価したい。 今後も状況を見ながら、関係者と連携していただき持続可能な公共交通の確保に努めて頂きたい。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。	・感染対策を行いながら生活交通として維持して頂いている点は評価できるが、目標が達成出来なかった系統については、コロナの影響以外の要因がないのか分析を行っていただきたい。 ・関係者と議論し新規利用者の拡大を目指していただき、住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。	
		作木線② 1日 2往復						
	NPO法人はすみ振興会 羽須美地域区域運行	羽須美地域区域運行	編成実施計画の見直しにより、邑南町の代替として運行を開始した。利用者ニーズを注視しながら運行を実施した。	A	A	目標を上回る利用状況である。 現在、作木線へ乗り継ぎ、三次方面へ行く通院利用の数が多。 引き続き、利用状況を観察し、利用者ニーズに対応した運行を実施する。		
川本町地域公共交通会議	大和観光株式会社	申請系統2：川本美郷線 上野～石見川本 平日1.5往復、土日祝3往復 (※令和2年4月より四半期は平日2往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大に鑑み、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A	令和4年度以降は新型コロナ感染拡大防止に配慮しながら公共交通を利用する上での正しい知識について随時アナウンスを行い、利用者とともに安心・安全な利用を目指す。	・コロナの影響によりイベント等は中止となったが、目標は達成出来ており評価できる。 ・通学通院といった生活交通として安心して利用できるよう環境整備していただき、引き続き持続可能な公共交通となるよう期待する。	
		申請系統6：川本美郷線 石見川本～浜原駅前 平日5往復(※令和2年4月より下半期は平日4往復)						A

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
美郷町地域公共交 通会議	備北交通株式会社	申請系統：作木線② グリーンロード大和～三次中央病院 平日2往復 土日祝2往復	通学・通院利用を中心に、市民また町民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、三次市内高校生を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題把握に努めた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等で利用が減少しているものの、通学・通院利用を中心に、市民また町民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納者支援や未利用者への啓発活動など利用促進に向けた取組は評価できるが、目標が達成出来なかった系統については、コロナの影響以外の分析を行っていただきたい。 ・引き続き感染対策をおこなっていただき、安心して利用できる生活交通として目標達成に向け関係者と連携していただきたい。 	
	大和観光株式会社	申請系統2：川本美郷線 上野～石見川本 平日1.5往復 土日祝3往復(※令和2年4月より四半期は平日2往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大に鑑み、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A	令和4年度以降は新型コロナ感染拡大防止に配慮しながら公共交通を利用する上での正しい知識について随時アナウンスを行い、利用者とともに安心・安全な利用を目指す。		
	大和観光株式会社	申請系統3：川本美郷線 上野～ゴールデンルートピアおおち 平日7.5往復(※令和2年4月より下半期は平日6.5往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A			
	大和観光株式会社	申請系統6：川本美郷線 石見川本～浜原駅 平日5往復(※令和2年4月より下半期は平日4往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A			

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(1)津山西循環線 (津山～マルナカ院庄店 ～PLANTS～津山)	R2.10月に、小型乗合交通実証実験の実施に向けた事前調査として、市内福田地区で公共交通に関するアンケート調査を実施し、地域の移動手段や行き先など交通事情の把握に努める。 R2. 12月から、公有民営補助で車両更新した、津山西循環線、マルナカ西循環線、津山東循環線の5台の車両で、地元大学生やプロバスケットボール選手による車内アナウンスを実施し、バスに親しみを持ってもらう取り組みを実施 R3.3月に、生活支援サポーター研修会において、公共交通に関する説明会と地域の公共交通に関する意見交換会を実施。 循環線及びそれに接続する幹線路線やその他枝線について、乗降調査をR3.10月に実施。 R3.7月に、小型乗合交通実証実験の実施に向けた事前調査として、市内上高倉地区で公共交通に関するアンケート調査を実施し、地域の移動手段や行き先など交通事情の把握に努める。 R3.8月に、小型乗合交通実証実験の実施に向けた事前調査として、市内油木地区で公共交通に関するアンケート調査を実施し、地域の移動手段や行き先など交通事情の把握に努める。 ・R3.3月～4月「さくらまつり」期間中の小循環線の特別運行実験。	A	B	路線延長により利用者が増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の伸びが鈍化した。バス利用時の感染症対策の徹底と安全性の周知を図り、併せて利用促進のための周知を行う。	・関係者との連携によるアンケート実施のほか、地元スポーツ選手とのコラボによる車内案内や乗降調査等、利用促進策に取り組んでいる点については評価できるが、目標が達成できなかったことについては、新型コロナウイルスの影響のみならず、理由の分析を行って頂きたい。 ・今後もコロナによる影響は続くことも予想され、利用者離れがある系統についてはいかに取り戻すか、状況を踏まえつつ関係者と議論をして頂きたい。	
		(2)マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山～マルナカ院庄店)		A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した。接続する「久米支所線」と(1)系統と一体的な運行体系を検討する。また、バス利用時の感染症対策の徹底と安全性の周知を図り、併せて利用促進のための周知を行う。		
		(3)小循環線 (津山～志戸部～津山)		A	C	観光路線としての経路や運行時間検討のための社会実験を実施し、一定程度の利用が見込まれた。引き続き社会実験を実施し、必要なニーズの把握に努める。また、バス利用時の感染症対策の徹底と安全性の周知を図り、併せて利用促進のための周知を行う。		
		(4)加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)		A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した。特に、系統(5)(6)は感染症の影響で離れた利用者が帰って来ていない状況となっている。運行経路のあり方について検討していくとともに、バス利用時の感染症対策の徹底と安全性の周知を図り、併せて利用促進のための周知を行う。		
		(5)勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A				
		(6)(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A				
		(7)津山東循環線 (津山～イオン津山店前～津山)		A	B	「公有民営型」による車両更新により、利用者は増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなり、利用者が減に転化した。バス利用時の感染症対策の徹底と安全性の周知を図り、併せて利用促進のための周知を行う。		
津山市	公有民営補助(車両更新) (1)津山西循環線 車両2台 更新 (令和2年10月1日から運用開始)	車内の案内放送を地元大学生や津山市をホームタウンとするプロスポーツチーム選手の声で行うことで、親近感を持ってもらう取組や、「図書館だより」スポーツイベントのちらしを設置するなど、身近な交通手段としてPR。	A	B	低床化車両により、高齢者などの利用者増を目指す。また、新車両活用により、運行効率改善をめざし、運行経費の削減を目指していく。	・低床化車両を導入することで利用者のニーズを取り入れながら利用促進に努めることを期待します。		
新見市地域公共交通会議	備北バス株式会社	市街地循環線 上市横見～石壁	新たな利用者の掘り起こしを行うため、乗車人員30万人突破記念イベントとして、無料乗車デーやバスの乗り方教室、児童生徒のバスイラスト展などを開催して、利用促進を図った。	A	B	今後も引き続き利用促進事業などの啓発活動を行い、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。また、より一層の利用者の確保を行うため、利用者へのアンケート調査等により利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うことによって、持続可能な運行を実施する。	・JR新見駅と幹線バス接続に配慮している点、記念イベントなど利用促進に繋がる取組を努めている点は評価できる。 ・新型コロナウイルスの影響もあり目標が達成出来なかったが、ウズコロナアフターコロナを踏まえた議論をして頂きたい。	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
真庭市地域公共交通会議	真庭市	<p>■フィーダー系統</p> <p>1)令和2年4月以前</p> <p>①森山～久世(1日:12便)</p> <p>②新庄～久世(1日:8便)</p> <p>③北房～久世(1日:12便)</p> <p>2)令和2年4月以降</p> <p>※時刻表変更</p> <p>①森山～久世(1日:12便)</p> <p>②新庄～久世(1日:8便)</p> <p>③北房～久世(1日:12便)</p> <p>■減価償却費補助</p> <p>1)対象車両:5台</p> <p>使用ルート:森山久世 3台 新庄久世 1台 北房久世 1台</p>	<p>・利便性の向上・運行の効率化のため、バス停位置の変更、運行時間の調整、利用者に分かりやすい運行計画の策定を行った。</p> <p>・小中学生の利用促進のため夏休み期間の乗り放題パスポートの発行を行った。</p> <p>・真庭市地域公共交通計画を策定し、向こう5年間の公共交通計画のマスタープランとする。</p> <p>【令和3年6月より】</p> <p>①森山・久世ルート</p> <p>・5、6便ダイヤ改正(発着地を真庭市役所に変更。市民および観光客利用を見越しての変更)</p> <p>・バス停位置の軽微な調整</p> <p>②新庄・久世ルート</p> <p>・昨年同様の時刻、ルートにて運行</p> <p>③北房・久世ルート</p> <p>・全便ダイヤ改正(新落合病院の開院に伴うもの。)</p> <p>・バス停位置の軽微な調整</p> <p>【夏休み期間中】</p> <p>④小中学生乗り放題パスポートを販売。</p>	A	A	<p>市内高校生の登下校対応を基本に、JR姫新線と民間路線バスとの接続及び運転免許証を保有しない市民や高齢者の通院等、日常生活利用にも配慮した効率的で利便性の高い、公共交通を目指す。</p> <p>また、コロナの感染状況に落ち着きが見られ、今後、観光・インバウンド需要の持ち直しも期待される。今後は、観光客の足としての役割を担えるよう、検討、ダイヤ改正等を行う。</p>	<p>・学生や高齢者の利用頻度が高い生活交通であり、利用者ニーズに合わせて運行時間の調整や小中学生利用促進など利用者の要望に沿った改良を行ったことは評価できる。</p> <p>・コロナの影響により利用者人数は減少しているが、今後も利便性の向上・運行の効率化を図ることで、公共交通利用促進につなげることを大いに期待する。</p>	
玉野市地域公共交通会議	旭自動車株式会社	①玉原・和田・日比エリア ②荘内・八浜エリア	<p>令和3年3月から実施しているシーバスの実証運行について、利用者が大幅に減少していないかなど、随時利用状況の分析・検証、を行っており、令和4年2月から、より効率的なルート・ダイヤに見直し運行する予定としている。</p> <p>コールセンターの担い手不足解消のため、コールセンターの運営時間を7:00開始から8:30開始に変更し、働きやすい環境作りの整備を図った。</p> <p>利用者の利便性向上のため、シータクの乗り場移設を実施した。</p>	A	C	<p>令和3年3月から実施しているシーバスの実証運行について、利用者が大幅に減少していないかなど、随時利用状況の分析・検証、を行っており、令和4年2月から、より効率的なルート・ダイヤに見直し運行する予定としている。</p> <p>シーバス・石島航路について、利用状況等の分析に基づき、利用者の負担額(運賃)と市の負担バランスについて検討を行っており、石島航路については、来年度の運賃改定に向けて方針を固めている段階である。</p> <p>コールセンターについて、随時見直しを実施しているが、依然コールセンターオペレーターの業務が多岐にわたり、人員不足等が問題になっているため、引き続き効率的なコールセンター運営の在り方を検討する。</p>	<p>・バスの乗り方教室や出前講座、車内デコレーションの実施など多様な利用促進策に取り組まれたことは評価できるが、収支率などの目標については未達成となった。コロナの状況を勘案して、今後、利便性の向上や外出機会の創出などが課題であり、要因を検証するためにも、関係者と検証方法も含め議論して頂きたい。</p> <p>・コールセンター運営の在り方については、働きやすい環境作りを進めており、引き続き業務の見直し含め効率を図っていただきたい。</p>	
	双葉タクシー株式会社	③山田・東兎エリア						
	下電観光バス株式会社	④田井・中央(宇野・築港)・玉エリア						

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
笠岡市地域公共交通 活性化協議会	株式会社井笠バスカンパ ニー	(1)デマンド大島中線 大島中地区～笠岡駅～笠岡市民病院 を結ぶデマンド型乗合タクシー	*コロナ禍における利用者減少を分析しながら、利用 促進として交通安全フェスティバル等のイベント実施 を予定したが、感染拡大により実施に至ることができ なかった。	A	A	目標は達成でき、指標も回復した。さらなる利用促進、マイバ ス意識の醸成に向けた啓発を行い、さらなる指標の改善を 図ってまいりたい。	*公共交通マップを配布や運転免許返納者への公 共交通利用の意識付け、季節のバスラッピングなど マイバス意識の醸成を目指した公共交通の利用促進 に取り組んでいることは評価できるが、目標が未 達成となっている系統がある。新型コロナウイルス の影響のみならず、理由の分析を行って頂きたい。 *今後もコロナによる影響は続くことも予想され、安 全に乗車で外出できるように、関係者と連携を密に し取り組んで頂きたい。	
		(2)デマンド尾坂線 尾坂地区～笠岡駅～笠岡市民病院を 結ぶデマンド型乗合タクシー		A	B	前回の実績と同じ指標となった。尾坂地区の人口減少で、利 用者が減っており、目的達成には至っていない。尾坂地区を 含めた沿線の市民団体と協働で、利用促進、マイバス意識 の醸成に向けた啓発を行い、また、ルート変更、ダイヤ改正 等の検討を行い指標の改善を図ってまいりたい。		
		(3)美の浜線 美の浜地区～笠岡市民会館～笠岡駅 を結ぶ路線バス		A	C	目標値の達成には至らなかったが、便の効率化により前回 の実績よりは向上した。笠岡市交通交流センターの利用啓発 を含めて、地域住民の利用促進及びマイバス意識の醸成に 向けた啓発を行い、利用定着を図ってまいりたい。また、著し く利用の低い時間帯のダイヤについて、改廃を検討する。		
		(4)大島線 大島地区～笠岡市民会館～笠岡駅を 結ぶ路線バス		A	C	目標値の達成には至らなかった。さらなる利便性向上及び 利用促進に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりた い。		
		(5)神島寺間線 神島(寺間・外浦地区～笠岡市民会館 ～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	C	路線近隣にある道の駅を訪れる乗客がいるため、目標の達 成ができた路線もあるが、今後、離島航路との接続を考慮し た、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成 に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、 (6)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。		
		(6)神島見崎線 神島(見崎・寺間・外浦)地区～笠岡市 民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	A	路線近隣にある道の駅を訪れる乗客がいるため、目標の達 成ができた路線もあるが、今後、離島航路との接続を考慮し た、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成 に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、 (5)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。		
		(7)神島外浦線 神島(外浦)地区～笠岡市民会館～笠 岡駅を結ぶ路線バス		A	C	路線近隣にある道の駅を訪れる乗客がいるため、目標の達 成ができた路線もあるが、今後、離島航路との接続を考慮し た、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成 に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、 (5)(6)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。		
		(8)城見台線 城見台団地～総合スポーツ公園～笠 岡市民病院～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	B	前回実績より向上したが、利用状況の調査を行い、利用者の 声を聞くとともに、ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促 進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を 図ってまいりたい。		
		(9)今井循環線(※東西廻の平均値) 今井地区～富岡地区～笠岡駅を結ぶ 路線バス		A	C	利用状況の調査を行い、利用者の声を聞くとともに、ダイヤ 改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸 成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。ま た、著しく利用の低い時間帯のダイヤについて、改廃を検討 する。		
		(10)広東線 広東地区～金浦地区～笠岡駅を結ぶ 路線バス		A	B	利用状況の調査を行い、利用者の声を聞くとともに、ダイヤ 改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸 成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。		
		(11)大井ハイランド・尾坂線 尾坂地区～大井ハイランド団地～笠岡 駅を結ぶ路線バス		A	B	目標は達成できたが、前年より指標は低下した。さらなる利 用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の 改善を図ってまいりたい。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況		
倉敷市地域公共交通会議	株式会社日の丸タクシー	真備地区コミュニティタクシー事業 西ルート(区域運行) (真備町妹尾、尾崎、服部、箭田、市場、有井、川辺、岡田、辻田地区の一部)	<p>・令和3年4月1日から災害公営住宅への立ち寄りを開始した。</p> <p>・令和3年1月より、駅、公共施設、スーパー、病院等にコミュニティタクシーのパンフレットを配布した。</p> <p>・市のホームページにコミュニティタクシーのパンフレットを掲載し、情報発信に努めた。</p>	A	C	<p>今後も地元運営委員会と連携して継続的な広報活動、利用促進活動に取り組んでいく。</p> <p>また、市のホームページと広報紙等により更なる情報発信に努める。</p>	<p>・公共施設、スーパー、病院等と連携し、利用促進に努めていること、災害公営住宅への立ち寄りなど利用者増に向けた取り組みを行っていることは評価できるが、目標が達成出来なかったことについては、コロナの影響以外の分析もしっかり行って頂きたい。</p> <p>・外出促進や活動機会が増加できるよう、関係機関と連携し、目標を達成することを大いに期待する。</p>
		真備地区コミュニティタクシー事業 東ルート(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺地区の一部)					
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートA(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺、下二万、上二万地区の一部)					
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートB(区域運行) (真備町上二万、船穂町船穂地区の一部)					
赤磐市地域公共交通会議	有限会社竹内タクシー	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 是里線、中山線、滝山線、河原屋線)	<p>デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大に努めるという課題に対して、利用促進に向けた啓発を継続して実施した。</p> <p>具体的には、2次的に啓発されていくことを意図して、目的地となる店舗や診療所へ時刻表を持参して制度説明を行った。また、区長、民生委員等が集う会へ参加して、周知を行った。</p> <p>また、令和2年4月1日から、75歳以上の方、おかやま愛カード所持者の運賃を半額にし、利用促進を図っている。</p>	A	B	<p>新型コロナウイルスが収束して、人の動きが元に戻るまでには時間がかかるのではないかと思慮される場所ですが、利用促進に向けた啓発を継続して実施し、デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大に努めることが重要であると認識している。</p> <p>地域住民のニーズをヒトとして、持続可能な交通手段確保に努めることで、ひいては地域を活性化することに寄与していきたい。</p> <p>赤磐市地域公共交通網形成計画により設定した平均輸送人員等の定量的な基準に基づき、バス路線の増便、減便、運行形態の変更等を検討していく予定である。</p>	<p>・目的地となる店舗や施設などへ時刻表の配布や周知活動など、利用促進を行っていることは評価できるが、コロナの外出自粛の影響もあり目標を達成できなかった。伸び悩んだ理由をコロナ以外の影響もあるのか分析を行い、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。</p> <p>・人の動きが戻るまで時間がかかることも予想され、安全安心に外出できる機会が増加できるよう、関係機関と連携し、目標を達成することを大いに期待する。</p>
	有限会社荒嶋建設	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 西勢実線、中勢実線、暮田・平山線)					
鏡野町地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	上齋原～マルナカ線	<p>路線バスの利用を促進するため、引き続き町広報誌、ケーブルテレビを通じて呼びかけを行った。</p> <p>また、高校生の進学支援のため、同じようなルートを通る幹線バスの定期券購入者が利用する際には半額の100円で利用できるように、また例年、中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするなど、利用を呼び掛けている。</p> <p>また、令和元年10月から、週2日運行を毎日運行に増便以降、利用者が増加したが、本年度は減少に転じた。</p>	A	B	<p>・町民の外出支援として定着しつつあるが、さらに新規利用者の発掘を検討する。町としては今後、公共交通計画を策定することにより、高齢者の外出支援等、路線の見直しを検討していく。</p> <p>・夏季・冬季の時間変更の際の折込広告は引き続き行い、町ホームページへの掲載など利用促進と合わせ広報に努める。</p> <p>・町北部地域では人口減少が著しく進んでいるため大幅な利用者の増加は望めないが、運転免許証の返納制度など、今後、運転免許を保有しない高齢者が増えてくると見込まれるため、鏡野町地域公共交通計画を適宜実行に移し、利便性向上を図る。</p>	<p>・利用促進のために広報誌、テレビを通じて呼びかけを行うなどの利用促進策は評価できるが、目標が未達成となった。これまでの周知活動などの効果検証を行って頂き、今後の施策を踏まえて議論頂きたい。</p>
		津山ごんごバス西循環線			<p>令和元年10月から本格運行となり、それに合わせて町内を運行する路線バスを西循環線に接続するよう時刻改正を行ったことから、鏡野町・津山市間の移動に利用する人が定着、本格運行後は大幅に増加した。</p>		
	有限会社中田石油店	富～箱線乗合タクシー	<p>運行回数、利用者数については以下の通り推移しており、コロナ禍における外出自粛傾向に併せて、高齢者の団体利用が減少したものである。</p> <p>帰りの便が遅いことで行先で時間を持て余すことや、中心地まで行くのに乗り継ぎが必要なことも遠因となっている。</p> <p>H31： 144回 300人 R2： 232回 363人 R3： 126回 209人</p>	A	C	<p>・富箱線乗合タクシーにおいては、利用している地区が限定されており、原因の把握と、利用がない地区での利用促進や呼びかけが必要である。</p>	<p>・外出によるコミュニティ活動を継続していただき、利用促進策については、ターゲットを明確にするなど今後の発展を期待する。</p>

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
吉備中央町地域公共交通会議	中鉄バス株式会社	・総社南校北～宮前線 ・総社駅～妙仙寺線	・本路線を当町地域住民に周知すること併せて、運行路線の一部となる総社市地域住民へも周知するために総社市と連携し、当該区域の町内会を通じて広報を展開した。引き続き総社市との連携を強化し、利用者の増加を目指す。	B	B	主な利用者が総社南高校への通学者であり、進学先により利用者数の増減が著しい路線となっている。今後、総社市在住者や観光客など通学以外の新たな利用者の掘り起こしを実施していく。	・コロナの影響の中、安全に学生に利用してもらっていることは評価できる。 ・学生以外の利用を促進するため、外出機会を増やせるよう幅広い関係者と協議を行い持続可能な公共交通に向けた取組を期待したい。	
久米南町地域公共交通会議	株式会社エスアールティ	町内全域	利用者利便の向上を目的に運行日及び運行日時の拡大を4月から実施した。	A	A	貨客混載事業の実施などにより、さらなる認知度の底上げを図る。	・JR津山線との接続を図るなど、幹線・支線のネットワークが連携した効率的な運行になっており、目標を達成できていることは評価できる。 ・引き続き利用状況の把握に努め、より持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。	
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー株式会社	山中・堀越外地区	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	B	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。	・福祉部門等との連携による市民への積極的な周知を行っている点は評価できるが、目標達成に至らなかった系統もある。利用者が減少傾向にある地区については、原因を把握していただきたい。 ・通院以外の外出機会が増え、社会参加促進及び地域活性化に繋がるような施策を関係者と議論していただきたい。	
		豊田前・西分地区	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	A	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		
		西厚保・川東地区	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	A	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		
		田代・奥分地区	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	A	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		
	美祢第一交通有限会社	美東地域北部	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	B	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。	(再掲) ・福祉部門等との連携による市民への積極的な周知を行っている点は評価できるが、目標達成に至らなかった系統もある。利用者が減少傾向にある地区については、原因を把握していただきたい。 ・通院以外の外出機会が増え、社会参加促進及び地域活性化に繋がるような施策を関係者と議論していただきたい。	
		美東地域南部	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	B	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		
	有限会社秋芳タクシー	秋芳地域南部	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	B	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		
		秋芳地域北部	運行事業者や福祉部門等と連携し、地域のニーズに合った運行内容の見直しを検討した。また、利用方法等を高齢者に対し積極的に周知した。	A	A	高齢者の集い場に積極的に参加し、利用登録会の実施や利用方法を丁寧に説明するなど、福祉部局等と連携した取組を展開する必要がある。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
岩国市地域公共交通活性化再生法協議会	岩国市	谷津上線 (玖珂駅～谷津上回転場)	JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定を行うことが利用者ニーズに即した運行となることから、引続きJR岩徳線のダイヤに合わせた運行ダイヤとなるよう調整を行った。 また、利用者への周知については、時刻表の全戸配布や主要施設等に設置するとともにホームページ等への掲載も行っている。 なお、岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表および公共交通マップも活用し周知を図った。	A	C	2つの当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の確保など地域活性化に繋がっているものと考えられる。このため、今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及び啓蒙活動等の利用促進を行う。 また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることに、持続可能な運行を目指す。	・JRの乗り継ぎに適したダイヤ設定や時刻表の全戸配布等による利用者への啓蒙活動、交通マップを敬老優待乗車証を送付する際に同時配布を行ったり、高校生を対象としたモビリティ・マネジメント事業の一環としても配布を行うといった取組を行っている点について評価できる目標達成に至らなかった系統もある。コロナ影響も大きいところであるが、それ以外の原因も把握していただきたい。		
		玖西循環線 (玖珂駅～玖珂駅)			B				
	第一交通株式会社	叶木線 (六呂師口～岩国駅)	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表及び公共交通マップを活用し周知を図った。	A	A	利用者数の増加を図るため、令和元年度に実施した利用者アンケートをもとに、運行時間を運行事業者等とともに調整し、より利便性の高い運行となるように努める。			・厳しい状況は今後も続くと考えられるため、ウイズコロナ・アフターコロナに即した運行内容について関係者と協議を行っていただきたい。
		二鹿線 (北河内駅～岩国駅)			A				
		持ヶ峠線 (上迫～岩国駅)			C				
	下関市地域公共交通会議	下関市	奎路子線 豊田総合支所～上奎路子	A	B	・生活バス全路線1乗車ワンコイン(100円)化を継続。 ・新型コロナウイルス感染症に関する状況を注視し、安心して利用できる環境の整備や、自治会へのチラシ配布、イベント時の意識啓発活動を行い、更なる利用促進を図る。			・安心に乗車できる環境作り、公共施設への時刻表の設置、チラシや時刻表の配布などの取組を通して利用者利便を図っている点について評価できるが、目標が達成できなかったことについては、コロナ影響も大きいところであるが、それ以外の原因も把握していただきたい。
一の俣線 豊田総合支所～佐野			A						
今出線 豊田総合支所～地吉			A						
一の瀬線 豊田総合支所～中の瀬			A						
樫の木・保木線 バスターミナル～樫ノ木			A	B	・再編実施計画に基づき、地域のニーズを踏まえた運行ダイヤや便数、経路、運行形態等、生活バス路線のさらなる具体的な見直しに取り組む。				
内日・田部循環線 バスターミナル～内日下～バスターミナル			A						
久野線 バスターミナル～多々良			A						

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
宇部市地域公共交通確保維持改善協議会	宇部市交通局	二俣瀬線	地域コミュニティと協力し、各自治会ごとに使い方(乗り方)支援等を実施し利用促進を行った。また、運行内容を周知するチラシ等を回覧した。	A	C	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、利用促進や運行内容の見直しを検討する。	<p>・地域住民の要望により停留所や利用実態に応じて運行内容の見直しを行っている点は評価できるが、目標が達成できなかったことについては、コロナ影響も大きいところであるが、それ以外の原因も把握していただきたい。</p> <p>・今後も引き続き利用実態と利用者ニーズの把握に努めると共に、現状を考慮した取組について関係者と協議を行っていただきたい。</p>	
	船木鉄道株式会社	吉部・万倉線	地域住民や事業者へのヒアリングにより利用者ニーズの把握に努めながら、引き続き接続する路線バスとの一体的な見直しを検討している。	A	C	引き続き利用実態と利用者ニーズの把握に努め、接続する路線バスと一体的な利用促進や見直しを実施する。		
	宇部山電タクシー株式会社	西宇部線	「イベントなどの周知活動を継続する。」とした点については、クリスマスキャンペーンを継続した。また、チラシ等を関係自治会に回覧した。また、令和3年10月から水曜日を、日祝ダイヤと同じ内容に変更(減便)し、収支率の改善を図った。	A	C	令和3年10月に実施した利用実態に合わせた見直し内容を周知する。また、イベントなどによる周知活動を継続し、収支率の改善、利用者数の増加を図る。		
		厚南線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に班回覧した。また、一昨年新たに設置した停留所の周辺自治会にチラシ等を配布し周知を行った。	A	C	利用実態と利用者ニーズの把握に努め、運行内容の見直しを検討する。		
	宇部第一交通株式会社	原線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に全戸配布した。また、利用実態に合わせ、令和3年10月に運行内容の見直しを実施した。	A	C	令和3年10月に実施した利用実態に合わせた見直し内容を周知する。		
	宇部市交通局	東部市内循環線(めぐりーな)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報誌、総合時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	C	運行内容が定着し、利用者が増加しているため、周知活動を継続する。		
		市街地循環線	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報誌、総合時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	A	目標は達成したが、収支率が30%を下回っていることから、運行の見直しを検討する必要がある。		
		黒石線	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報誌、総合時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	C	宇部市地域公共交通利便増進実施計画に基づき都市拠点、地域拠点を高頻度・等間隔運行で結ぶ主要幹線として、今後も利用動向や要望を踏まえて改善を図る。		
	宇部第一交通株式会社	桃山線	運行内容、およびコミタクと路線バスを利用してショッピングモールに行く際の想定ダイヤを記載した周知チラシを関係自治会に配布した。令和3年10月から、利便性向上のため、乗降・降車に関するルールの見直しを実施した。	A	C	利用実態と利用者ニーズの把握に努め、運行内容の見直しを検討する。		
		東岐波線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に全戸配布した。また、利用者要望により、令和3年10月から運行ルートは変更せず、ルート上に新たに1ヵ所停留所を追加した。	A	A	令和3年10月に実施した利用実態に合わせた見直し内容を周知し、引き続き収支率及び年間利用者数の増加を図る。		
宇部山電タクシー(株)	藤山線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に配布した。	A	C	利用実態と利用者ニーズの把握に努め、運行内容の見直しを検討する。			

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
阿武町地域公共交通 会議	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～宇生賀	利用者のニーズ把握を行い、通学、通勤、通院などに利用しやすいダイヤや路線を検討していくため、町と事業者共同でニーズを把握し検討を行った。	A	A	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握し、事業PRなど引き続き実施していく。	・通学通院といったで利用者ニーズの把握に取り組んでいる点や、町内行事とタイアップしながら利用促進に取り組んでいる点については評価できる。 ・目標が達成出来なかった系統については、コロナの影響以外の要因分析を行い、安全安心に利用できるよう持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。	
		道の駅阿武町(齋藤医院前)～福賀小前	令和3年10月から福賀地区にて体制を構築し実施し、住民自らが行う住民共助の交通支援体制を構築し、地区間バスへ円滑な接続を図っている。	A	B	今後、福賀地区以外へも共助の交通支援体制構築を図り、地区間バスとの円滑な接続を図る。		
長門市地域公共交 通計画策定協議会	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俄山	俄山公民館～俄山地区～俄山公民館	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しに向けダイヤ見直し等の検討を行った。	A	A	令和元年度に実施した地域住民対象アンケートでの要望内容等を検討した結果、R3年度より運行日、運行回数の増加を行った。	・JR、バスを網羅した時刻表の全戸配布や利用者ヒアリングなどの利用促進の取り組みを進めている点は評価できるが、目標を達成出来なかった系統については、目標値の見直し含め、要因分析を行って頂きたい。 ・利用者ニーズの変化に対応できるよう、住民意見を反映した運行内容の協議を重ねていただきたい。	
	特定非営利活動法人 むかつく	久津・上小田～向津具地区～久津・上小田	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しに向けダイヤ見直し等の検討を行った。	A	A	利用については、目標達成している状況ではあるが、市全体の公共交通体系の見直しの中、地元の要望を踏まえ、R3年度より運行日の増加を行った。		
	富士第一交通有限会社 長門山電タクシー有限会社 新日本観光交通株式会社	大が迫～真木・湯本温泉・市役所～齊木病院	運行事業者による運行区域内住民への周知	A	C	令和3年度より乗合タクシーを廃止し、洪木・真木地区を営業区域としたデマンド交通を導入した。		
	人丸タクシー株式会社	人丸駅～津黄・後畑～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知	A	C	令和3年度より乗合タクシーを廃止し、津黄・後畑地区を営業区域としたデマンド交通を導入した。		
		人丸駅～日置地区～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。	A	A	平成30年度に実施した地域住民対象アンケートでの要望内容等を検討した上で、利用者のニーズに沿った運行体系等の見直しを行う。		
柳井市地域公共交 通会議	柳井三和交通株式会社	I 系統(柳井駅便) 日積地区	・路線バスの廃止に伴い、令和2年10月1日から運行の見直しを実施。運行便数の増便と運賃の改定を実施した。 ・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。	A	B	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。 ・ホームページや窓口での案内、民生児童委員や福祉員による個別利用促進などを昨年度に引き続き行っている点や、今年度ではアンケート調査、住民説明会も実施することで利用促進に取り組んでいる点は評価できるが、目標を達成出来なかった系統について、増便と運賃改定の効果検証を行っていただきたい。 ・今後もコロナも踏まえた運行内容の検討に取り組んでいただき、利用者の増加と目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。		
		II 系統(柳井駅便) 大島地区	・令和2年10月1日より運行開始。	A	A			

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山陽小野田市地域 公共交通会議	小野田第一交通株式会社	松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線 瀬の峠・陽光台・山川線	対象自治会へ自治会便を活用した回覧により事業周知を実施した。また、利用回数が減少した利用者へ電話による聞き取りを行うとともに、利用者へアンケート調査を実施し、ニーズ把握に努めた。	A	B	引き続き、自治会便等を活用した事業周知、利用者へのアンケート調査及び聞き取り等を行い、利用者の確保を図る。また、コロナ禍による利用実態に合わせ、運行車両の小型化、ダイヤや便数の見直し等も検討し、サービス水準を維持しながら効率的な事業実施に努める。	・利用者への聞き取り調査を行い、運行事業者とも協議を行っていることについては評価できるが、目標が達成できなかったことについては、目標設定の見直しも含め、これまでの効果検証を行って頂きたい。 ・今後はコロナという現状も考慮した利用促進策の検討を行い、利用者数の増加、目標の達成に繋がっていただきたい。	
田布施町有償運送 運営協議会	社会福祉法人田布施町社会福祉協議会	城南・西・東田布施系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用等有償運送をPRした。また、必要に応じて聞き取り調査を行った。	A	C	民生委員等福祉関係者を介した対象者への情報提供や、平成30年4月から実施している運転免許証自主返納者への支援により、登録者数は徐々に増加している。今後においても、新型コロナウイルス感染症対策を意識し、随時状況を把握しながら、適切な時期を見極め、引き続き協働により等の広報、関係者への情報提供、ポスター・チラシ・回覧等での周知に取り組む。 併せて、運行時間や利便性に関しては、一部の利用者から提言があったため、利用者の利便性に沿った運行となるよう、改善に努める。	・福祉関係への周知や聞き取り調査など、利用促進に取り組まれていることは評価できるが、目標が未達成となっており、コロナウイルスの影響以外の要因分析や、引き続き利用促進や利便性向上に取り組まれることを期待する。 ・今後も随時コロナの状況を踏まえながら、利用者のニーズに沿った運行内容の検討を行うことで、利用者の増加につなげていただきたい。	
		麻郷・麻里府系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用等有償運送をPRした。また、必要に応じて聞き取り調査を行った。	A				
周南市地域公共交 通会議	周南市	大道理・須々万線 (河内～大道理・夢求の里交流館～高原病院)	コロナ禍により会議の開催はしていないが、支所を通じて利用者や事業者の意見を収集する等、状況把握を行った。	A	B	引き続き、地域のニーズ、事業者の意見の把握に努め、ルート、乗降場等の検討を行う。	・コロナの影響もありイベントなどの実施が難しくかったが、目標を達成出来た系統もあり評価できる。未達成については引き続き要因分析を行っていただき目標達成していただきたい。	
		八代・高水線 (大迫～鶴いこの里～ゆめプラザ熊毛)	地域から要望の高かった、生活便利施設や診療所が立地する隣接する地区への移動や、八代地区内の乗降場所についての見直し協議を、八代地区生活交通協議会で行った。	A	A	・11月から隣接する地区への1カ月半程度の実証運行を実施予定。本格運行に向け、運行内容を検討する。 ・地区内運行範囲を拡大し、よりドアツードアに近づける方向で実施予定。 ・八代高水線の停留所の追加変更について検討を行う。	・隣接地区への運行について、アンケート調査等も実施しながら利用者ニーズの把握に努め、持続可能な公共交通ネットワークの構築を期待する。	
光市地域公共交通 協議会	西日本バスネットサービス株式会社	光駅～光市役所～光駅	・毎月の利用者数モニタリング ・新型コロナウイルス感染症に関する感染拡大防止対策(手指消毒液の設置、車内消毒)の継続による安心な利用環境の提供 ・光市公共交通マップの改訂及び時刻表とともに沿線施設への設置、環境活動団体への提供による利用啓発	A	B	新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策(手指消毒液の設置、車内消毒)の継続による安心な利用環境の提供及び公共交通マップや時刻表の沿線施設への設置、環境活動団体への提供による継続した利用啓発に努め、目標達成を目指します。	・毎月の利用者数モニタリングや、県や市のノーマイカーデーへの協力、公共交通マップの作成と公共施設などへの設置等、利用促進に取り組んでいる点や感染対策をしっかりと行っていただいている点には評価できるが、目標が未達成となった原因分析をしていただきたい。 ・コロナ時代における安心な利用環境の提供とPRの取組を行うことで利用者数の増加に繋がれることを期待する。	
下松市地域公共交 通活性化協議会	下松市	米川・花岡線	地域住民からの要望を反映し、令和3年1月4日より新たな停留所(地上)の新設を行った。	A	C	・住民のニーズや意見等を反映し、定時定路線と区域運行を併用した運行形態として実施していることから、どちらの運行形態の地区においても地域への認知度を向上させることにより、更なる利用者の掘り起こしを行う。 ・利用のない地域における需要の掘り起こしに繋がる取組を検討し、実施する。 ・地域の公民館行事などと連携し、利用促進に繋がる施策を連携して行う。 ・予備の運行車両を活用した試乗会を実施するなどにより、新規利用者の開拓に向けた取組を行う。	・運転免許自主返納者への回数券配布のほか、多くの啓蒙活動に取り組んだ点については評価できるが、目標が未達成となった。コロナウイルスの影響により外出自粛している声が多いことだが、今後も安全安心に利用できる環境作りをしていただきたい。 ・今後も利用者のニーズや意見等の把握に努め、利用者ニーズに応じた運行内容の検討に取り組み、利用者数の増加、目標の達成、それによる持続可能な公共交通ネットワークが構築されることを期待する。	